

# 忠岡町立忠岡小学校

学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む

考えられる課題

●漢字を書くことには、一定の成果が見られるが、読むことについても指導を工夫する必要がある。

正答率

(2) 76.2%

(3) 63.5%

無解答率

(2) 6.3%

(3) 6.3%

これからの指導の方向性

☆引き続き、朝学習や校内漢字検定の取組を継続し、内容を工夫する。

1

次の一と二の問いに答えましょう。

— (1)から(3)までの文の — 部の漢字の読みを、ひらがなで書いてねいに書きましょう。

(1) 道路の 標識 を見る。

(2) 街灯 がつく。

(3) 勢いよく 走り出す。

# 忠岡小学校 国語 B

課題を解決するために、目次や索引を活用して、本を効果的に読む。

## 考えられる課題

●複数の情報を整理し、解答することに課題がある

## これからの指導の方向性

☆複数の情報を整理し、ものごとを考えられる力を養う。

### 『動物の体』の目次

#### 目次

頭.....	6	毛.....	114
目.....	26	手.....	131
耳.....	44	足.....	158
鼻.....	68	しっぽ.....	175
口.....	91		

### 『動物図鑑』のさくいん

#### さくいん

<b>ア</b>		<b>ハ</b>	
～ (中略) ～		バンダ.....	128
<b>カ</b>		ビーバー.....	105
カバ.....	69	ヒツジ.....	123
カモノハシ.....	97	ヒョウ.....	170
カンガルー.....	159, 183	フクロウ.....	35
キリン.....	12, 163	ブタ.....	71
～ (中略) ～		フラミンゴ.....	168
		～ (内容が続く) ～	

正答率 46.0%  
無解答率 11.1%

2

原田さんと野口さんは、校外学習で動物園に行き、ゾウの鼻について下のような【疑問】をもちました。そこで二人は、それぞれの疑問を解決するために、次の【科学読み物】を読みました。


【科学読み物】の下の【原田さんのふせん】、【野口さんのふせん】は、分かったことや新たな疑問を書いたものです。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

三 【原田さんのふせん】④には、新たな疑問が書かれています。原田さんは、この疑問を解決するために、次の『動物の体』と『動物図鑑』の二冊の本を使って調べることになりました。それぞれどのページから読み進めたらよいですか。『動物の体』の目次に書かれているページの番号を一つ、『動物図鑑』のさくいんに書かれているページの番号を二つ選んで、それぞれ書きましょう。

【疑問】

【野口さんの疑問】


ゾウの長い鼻は、  
においを感じ取る  
ことができるのか。



野口さん

【原田さんの疑問】

A



原田さん

## 忠岡小学校 国語 B

詩の解釈における着眼点の違いを捉える。

### 考えられる課題

●文の内容や意味を適切に捉えられる力

正答率 36.5%

無解答率 25.4%

### これからの指導の方向性

☆文や言葉の意味を理解し、関連したことから内容を変えないで別の表現を身につける指導を進める。

3

北川さんの学級では、まど・みちおがたんぼを題材にして書いた【詩1】と【詩2】を比べて読み、考えたことについてグループに分かれて交流することにしました。この二つの詩と【グループでの交流の様子】をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

二 【グループでの交流の様子】の



の中で、山田さんは、どのようなことに注目して考えたこと

を述べていますか。その内容として最もふさわしいものを、1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 題名に使われている言葉
- 2 声に出したときの言葉の調子やひびき
- 3 それぞれの連での問いかけの表現
- 4 「みんな」が走っているときの様子

・減法と乗法の混合した整数の計算をすることができる。  
・異分母の分数の加法の計算をすることができる。

1

次の計算をしましょう。

(5)  $100 - 20 \times 4$

(6)  $\frac{1}{3} + \frac{2}{5}$

正答率 (5) 52.4%

(6) 74.6%

無解答率 (5) 0.0%

(6) 1.6%

### 考えられる課題

●四則計算から進んだ基本的な計算方法の定着。

### これからの指導の方向性

☆今後も朝学習での百マス計算等に継続して取り組むとともに、その内容について工夫を行う。

全体と部分の関係を示すために用いるグラフを選択することができる。

2

あきらさんは、学校の水の使用量について調べるために、事務室で下の資料をもらいました。

学校の水の使用量

月	4・5月	6・7月	8・9月	10・11月	12・1月	2・3月	1年間
使用量(m <sup>3</sup> )	550	1500	950	900	800	800	5500

※ 「4・5月」は、「4月と5月の合計」を表しています。

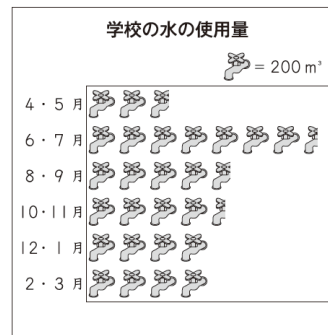
(3) あきらさんは、6・7月の水の使用量が1年間の水の使用量の $\frac{1}{4}$ より多いことを説明します。下の1から4までのどのグラフを使うと最もわかりやすいですか。1つ選んで、その番号を書きましょう。

### 考えられる課題

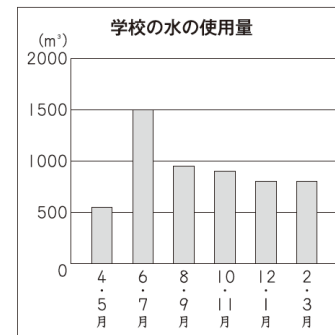
●グラフの意味やグラフを用いて全体と部分の関係を理解する力

正答率 41.3%  
無解答率 3.2%

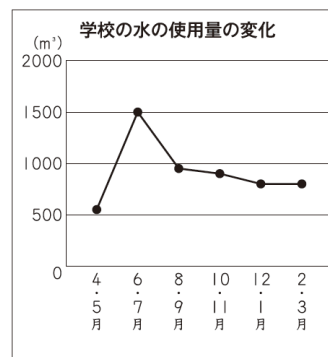
1 絵グラフ



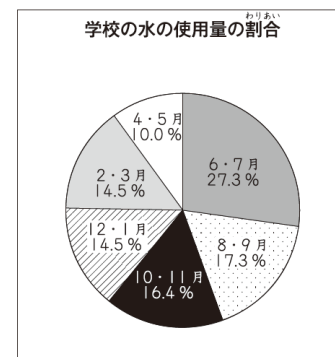
2 棒グラフ



3 折れ線グラフ



4 円グラフ



### これからの指導の方向性

☆グラフの意味やグラフが示す内容について理解を深める指導を行う。

☆学んだことを活かし、与えられた情報を基に、条件にあう解決を考える指導を行う

昨年の昼食時間を見直したときに、今年は準備の時間を何分間にすればよいかを書く。

3

かつやさんの学級では、<sup>しゆくはくがくしゅう</sup>宿泊学習の計画を立てています。

かつやさんたちは、昨年の昼食時間について、下の2つの問題点があったことを先生から聞き、解決方法話し合うことにしました。

- ① ゆっくり準備したので、食事の時間や片付けの時間が短かった。
- ② ご飯を分け終わったとき、足りなくなったり、残ったりした。

### 考えられる課題

●示された情報を基に、複数の条件に合う解決を求める力。

正答率 19.0%

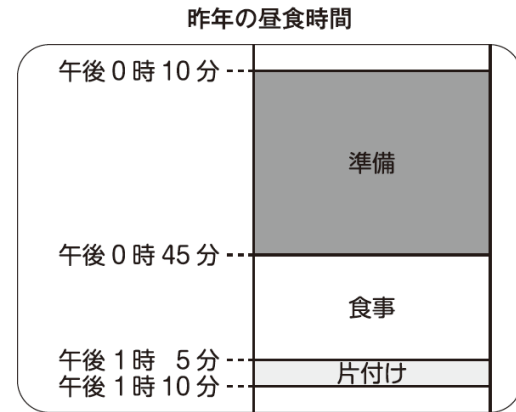
無解答率 7.9%

### これからの指導の方向性

☆示された複数の条件をもとに、算数的な課題を解決する指導の充実を図る。

☆示された情報を活かし、言葉・式を使って、求め方や理由を説明できる力を育てる指導を行う。

(1) まず、下の昨年の昼食時間の図をもとに、①の問題点について話し合いました。



今年も昼食時間は、午後0時10分から午後1時10分までです。

かつやさんたちは、昨年より食事の時間を5分間長く、片付けの時間を3分間長くすることにしました。

今年は準備の時間を何分間にすればよいですか。答えを書きましょう。

## 忠岡小学校 児童アンケート

(6)自分には、よいところがあると思いますか。

あてはまる・どちらかと言えばあてはまる  
41.3%

### 考えられる課題

●自分が認められる存在であるとの機会が十分でない。

### これからの指導の方向性

☆成果だけでなく、取り組む姿勢や過程を大事にして評価していくことに留意し、教師、大人だけでなく、児童からも認められる、また、児童同士認め合える取組を学校教育活動全体を通じて行っていく。

(47)学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。

難しいと思う 31.7%  
どちらかといえばそう思わない 33.3%

### 考えられる課題

●自信をもって自分の考えを書いたり、人に説明したりする力と、それを適切に評価できる力を養う

### これからの指導の方向性

授業や行事等において、他者の意見や考えを聞くとともに、自分の考えを伝え、互いに認めあい、協力していこうとする姿勢を育てる指導を行う。



## 忠岡町重点目標にむけての分析及び今後の方向性

### 忠岡町重点目標

①授業内容がわかる子どもをふやす

②授業で自分の考えをまとめ説明や発表ができる子どもをふやす

③家で計画的に学習する子どもたちを育てる

④読書に親しむ子どもたちを育てる

⑤自分には良いところがあると思う子どもたちを育てる

①授業のめあてや流れを明確にするとともに、わかりやすい発問や資料提示を心がけた指導を行う。なお、資料提示等には、ICT機材を効果的に活用する。

②登場人物の心情や考えを問うことや、「何故そうなるのか」を問う発問の工夫改善を進める。また、発問の意図を理解しやすくしたり、答を共有化するためにICT機材の効果的な活用を進める。

③家で計画的な学習を進めるため、保護者との連携を意識し、家庭学習がなるべく週間等の取組の充実を図る。

④児童の読書意欲を高めるため、司書と連携し、学校図書室や学級文庫の整備や読書表彰等の取組をすすめる。

⑤成果だけでなく、取り組む姿勢や過程を大事にして評価していくことにも留意し、学校教育全体を通じて、自己肯定感を高める取組をすすめる。